

平成 24 年度 血液凝固異常症全国調査のまとめ

平成24年度の血液凝固異常症全国調査は1,331施設(1,508担当部所)に調査用紙を送付し、平成24年5月31日時点における状況を報告していただくよう依頼した。調査対象期間は平成23年6月1日から平成24年5月31日までの1年間である。

新規に報告された症例による増加と、調査期間における死亡報告および調査期間以前の死亡例で新たに報告されたものによる減少を総合すると、平成24年5月31日現在で集計した日本全国に生存する血液凝固異常症の総数は、下表に示すように7,287例(HIV非感染6,534例、HIV感染753例)となった。このうち、小児の血液凝固異常症の総数は1,226例であった。

日本全国における血液凝固異常症総数

	血友病A	血友病B	VWD	類縁疾患	小計
HIV非感染生存	4055	819	1028	632	6534
(男性)	4025	806	463	330	5624
(女性)	30	13	565	302	910
HIV感染生存	572	171	7	3	753
(男性)	572	171	2	0	745
(女性)	0	0	5	3	8
HIV非感染・感染生存合計	4627	990	1035	635	7287
(男性)	4597	977	465	330	6369
(女性)	30	13	570	305	918
AIDS発症(生存)	120	40	2	0	162
(男性)	120	40	0	0	160
(女性)	0	0	2	0	2
HIV感染死亡(累積)	515	154	1	9	679
(男性)	513	152	1	7	673
(女性)	2	2	0	2	6
HIV感染総数(生存および累積死亡)	1087	325	8	12	1432
(男性)	1085	323	3	7	1418
(女性)	2	2	5	5	14

調査期間におけるHIV非感染の死亡報告は12例、HIV感染の死亡報告は8例(血液凝固異常症7例、HIV感染後天性凝固異常症1例)であった。このうちHCVの感染が原因と考えられる重篤な肝疾患が死因である報告は、HIV非感染4例、HIV感染4例であった。このようにHIVの感染の有無にかかわらず、主にC型肝炎ウイルスを原因とした重篤な肝疾患が死因の3割以上を占めた。

このような状況において、平成22年6月1日から平成24年5月31日までの2年間にC型肝炎ウイルス感染に対してインターフェロン治療が行われた報告数は、HIV非感染血液凝固異常症で96例、HIV感染血液凝固異常症で49例であった。

HIV感染症例においては、新たなAIDS発症例はなく、かつ、死亡時にAIDS指標疾患の罹患があった例は1例であった。さらに、今年度のCD4陽性リンパ球数の平均値は490.1/μl、HIVのRNAコピー数は40 copies/ml 未満が約85.3%と、HIVに関してはこれまでに引き続き比較的良好な状態が保たれている。

一方、患者さんの高齢化に伴う高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病、心筋梗塞などの血栓症が懸念されるようになった。治療を要する糖尿病、高血圧、高脂血症の報告は、20歳未満の患者さんにおける報告はほとんどないが、年代区分の上昇に従って高い割合となっており、今後、注意が必要と思われる。

血液凝固異常症全国調査は本邦における血液凝固異常症の全体を調査対象とし、その現状および問題点を把握するための唯一の調査であり、今後も調査票の回収率の向上に努めつつ、患者さんのQOLに関係するインヒビター、家庭療法、定期補充療法などの情報を含め慎重な調査を継続していきたい。